

高校ラグビーにおける勝敗の決定要因 — 県立浦和高校ラグビー部のゲーム分析から —

Factors of game result in Japanese high school rugby football game

1K04A117-1

島川 大輝

指導教員

主査 作野誠一先生

副査 堀野博幸先生

緒言

母校、県立浦和高校ラグビー部の指導にあたって5年になる。短い経験ではあるが、ここに一つの真理というか、自分自身のスポーツ観を記しておきたい。「スポーツはその人そのものの生き写しである」と。ラグビーもまた同じである。その人の持っている、明るさ・強さ・臆病さ・熱さ・責任感・使命感・感謝する気持ち・様々な心理がプレーの端々に表れてくる。それがスポーツであり、だからこそ見ている私たちは感動する。

ラグビーは様々な要素が組み合わさって勝敗が決する。それはまるで私たちの社会生活のように複雑で、心理・技術・経験・戦術・戦略・運、本当に多様なものがプレー・勝敗に影響を与える。その中でも、内面の充実は、ラグビーのゲームがゲームであるための幹となる部分で、そういった精神面と理論を一度切り離して考えてしまうとラグビーでは試合に負けてしまう。

しかし、精神論だけではゲームでは勝てないのも事実なのである。

本研究ではラグビーのゲーム中における各種のプレー事象の時間的・量的変化を可能な限り客観的に調べ、ゲームの因果関係、さらには勝敗を分かち要因となるものを実証的に明らかにしたい。というのも、第77～86回高校ラグビー埼玉県大会(10年分)、ベスト16以上のゲームにおいて格下のチームがシード校を破る、いわゆる下剋上が起こった試合は、全150試合中、たったの4試合だけであったからである。もともと、一般的にラグビーでは波乱は起きにくいとされているが、ここまで可能性が少ないと、見る楽しみ、プレーする楽しみを見出さない人がいてもおかしくない。現在、ラグビー人気は低迷していて、埼玉県の高校部活動も減少してきているが、本研究がいわゆる強豪校ではない多数のチームに勇気や希望を与えるものになればと願う。

研究方法

研究対象には、全て浦和高校側のメンバーが同じ試合を選定し、同一校相手に勝敗が分かれた試合の6試合を選び、客観的に数値化する、ゲーム中に発生する要素を比較しながら、本研究を行う。

分析項目

本研究ではゲーム分析を行うにあたって、以下の項目を分析した。

①トライ数、②ゴール数、③ペナルティゴール数、④ペナルティキック、⑤フリーキック、⑥スクラム数の、⑦ラインアウトの数、⑧ターンオーバーの数、⑨エラーの数、⑩タックル数、⑪タックル成功数、⑫タックル成功率、⑬モールの数、⑭モール時間、⑮ディフェンス・アタックの時間、⑯アタックの数、⑰アタック成功数、⑱アタック成功率、⑲キックの数

結果及び考察

今回の研究を通して、浦和高校ラグビー部のゲームの勝敗に大きな影響を与える要素としては、①ラインアウトの成功率、②ターンオーバーの数、③タックル成功率、④アタック・ディフェンス両方のモールの数、⑤キックの数、の5つの要素が考えられた。

また、アタック面では、「Keep the Ball」と「ゲインラインの突破」が二大命題であることが分かり、そのための意図した仕掛けの意識が重要であった。

以上のことをふまえ、強豪校に立ち向かうチームは、ラインアウト獲得のための工夫、ターンオーバーを防ぐチームスキルの向上、モールを形成させないタックルの研究、キックの使い方など、意識した練習を重ねる必要がある。それにより、少しでも多くの「下剋上」を起こし、ますますラグビーの試合がおもしろくなればと筆者は期待する。

今後の研究課題

今回の研究では、時間的・量的な測定にとどまったが、地域的な測定を加えてより詳細なゲーム分析が期待される。

また、調査対象が浦和高校ラグビー部であったが、ラグビーゲームの分析とするならば、他校ではどうか、大学レベル・社会レベル・国際レベルではどうか、という調査も必要であると感じた。さらに、選手が試合に臨む心理状態やラグビーにおける精神面の重要性を数値化し、客観的に測定する研究が出来れば、なお面白いと思った。